



「9条守ろう」スタンディング(米沢)

6月28日 米沢市役所前交差点

草の根から「再び戦争と暗黒政治を許さない」を高く

参院選では、自公、維新、国民等の改憲勢力はロシアのウクライナ侵略を口実に、「憲法九条で日本は守れるのか」と危機を煽り、大軍拡と改憲を競い合い、戦前の翼賛体制の再来を彷彿させるものとなりました。さらに、こうした風潮のなかで多くの右翼政党が我が物顔で闊歩しはじめ、日本の平和と民主主義への危機を感じずにおれません。

いま日本は「戦争か平和か」の戦後最大の危機を迎えています。改めて、「憲法九条を守る」「国民大運動と」「市民と野党の共闘」の再構築に向けた草の根での運動が急がれます。その一翼である「再び戦争と暗黒政治を許さない」掲げる同盟の役割が今こそ求められている時はありません。

この激動する情勢下、映画「伊藤千代子の生涯」の上映運動を成功させましょう。「戦争と平和」を基調とするこの映画は、多くの県民に感動と勇気をあたえ、同盟運動への理解を広げることになるでしょう。

吉田万三中央本部新会長講演会

〈第36回県本部大会、第一部企画〉

◇ 7月30日(土)

AM10:30~12:00

代議員でない方も参加できます

◇ 山形市男女共同参画センター「ファール」

(新婦人として会場を借りています)

◇ 演題「転換期を迎えての同盟運動」(仮題)



「不屈」No. 577付録

山形県版 No. 395

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

山形県本部

〒994-0073

天童市寺津263

瀬野幸男方

TEL. FAX.

023-654-3255

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

① 治安維持法体制の復活に反対する。

② 国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法であつたことを認めること。

③ 国は、治安維持法犠牲者に、謝罪と賠償を行うこと。

第四〇回全国大会―草の根から「戦争と暗黒政治を許さない」闘いで、2万人同盟の早期達成を！

6月12・13日、コロナ禍の中で3年ぶり、参院選を目前に緊迫した情勢の中で第40回大会が開催されました(詳細は中央版「不屈」7月号参照)。山形県から代議員として、瀬野幸男県本部事務局長、白根澤澄子県本部副会長、須貝健一県本部常任理事が参加。

2日間で38人が発言、特に、映画「伊藤千代子の生涯」上映運動、2万人会員実現特別期間の取り組みの発言が目立ちました。上映運動と結び会員拡大目標達成に県本部・支部が一体で取り組んでいる千葉、長野、兵庫、北海道などの取り組みに学ばれました。山形からは瀬野代議員(写真左)が、コロナ禍と会員の高齢化等で署名が激減している現状を報告。そして学習運動と会員拡大・世代継承・組織の再生に取り組む組合ながら、再び県民人口の1%の署名に挑戦する決意を表明しました。

増本一彦会長の死去に伴い新会長に吉田万三氏を選出。吉田会長は新役員を代表して、「当面、参院選で改選勢力3分の2を全力で阻止する。その後の予想される国民投票の闘いに向け、草の根から(同盟の)『戦争と暗黒政治を許さない』闘いを強めよう!」と訴えました。(山形県から中央本部常任理事に瀬野幸男、理事に白根澤澄子の各氏が選出されました)

「国会請願」紹介議員

山形県が要請した4人全員承諾

5月11日国会請願が行われ、6月10日現在、1000人(衆議院63人、参議院37人)が紹介議員を承諾しました。中央本部は参院選後の臨時国会で引き続き要請を行います。

山形県は、高橋千鶴子衆議院議員と舟山康江、芳賀道也、岩淵友各参議院議員に署名を託し紹介議員を要請していましたが4人全員が承諾し

てくれました。

参議院選後の新たな情勢の中で、治安維持法犠牲者の「国家賠償法」制定をめざす国賠同盟運動、特に請願署名運動を草の根から広げ、県民人口比1%11万筆の達成をめざして運動をスタートさせます。

山形県母親大会のこれから

米沢支部 鈴木淳子

第50回山形県母親大会が6月5日山形市ヒルズサンピアを会場にオンライン形式で開かれました。以前からの母親大会をご存知の方は、母親大会もオンラインの時代になったのかと思われるでしょうが、県母親大会の新しい区切りともいえる第50回大会だったのでその経過を書きます。第1回日本母親大会は1956年東京で開かれ、山形県から、伊藤てるさんとともに12名の代表が参加しました。この年山形県では大会準備会が発足し、翌年山形市で800人が参加して第1回県母親大会が開かれます。その後1972年、86年までの15年間は、県大会は開かれず地

区の運動も困難になったと聞きました。87年山形市で1300人の参加者とともに再開の大会が開かれ89年には全国大会の会場にもなりました。その後県内を持ち回りの輪番制として大会を開催してきましたが、このまま輪番で開催を続けるか、分科会と講演の1日開催でいいか、参加費をどうするかなど3年近く話し合われ、今年の春、事務局体制についての確認書が交わされました。そして事務局を5地区の輪番制とする、大会を半日開催とする、内容は開催地の意向を留意しながら講演または分科会を行い、運動交流を充実するなどが確認されました。

今年は、コロナ禍もあつてのオンライン開催でしたが、今後へとつながるための大会でした。国賠同盟は母親大会の事務局に団体として参加し、私は事務局会議で、長らく大会を支えてきた方々の意見を聞くことができました。母親大会というバトンをどう次の世代に渡すことができるのか、国賠同盟もそうですが正念場に入っているのだと思います。

映画「わが青春つきるとも」を鑑賞して

伊藤さち子 山形支部

「わが青春つきるとも」を鑑賞しました。一言で語り尽くせない残酷な内容で、国家が「悪人」とみなした人々に対して徹底的に身も心にもダメージを与えて撲滅しようとした状況が余すところなく表現されていました。

刑務所の中で、女性囚人とされた人々の団結と情報交換には、悲しい内容でありながらほほえましい情景にほっとさせられました。

千代子さんの映画には、他人事でないことが我が家にもありました。私の伯母(伊藤てるの姉)が、同時代に同じ状況に置かれました。那須てつが、非合法で逮捕され、山形刑務所に収監されたそうです。(母てるからの伝言です)刑務所でのような扱いを受けたのか、伯母は母に話さなかつたそうです。毎回、衣類などを持って伯母の面会に行っていたそうです。当時、母は十五才の年令で、

訳が分からないまま面会し、質問も出来なかつたそうです。てっさんは出所後自宅に戻りましたが、両親は小さい時からの自慢の娘を咎めることもなく一緒に生活していたそうです。母は、どうしててっさんが刑務所に入れられたのか分からず、てっさんの後ろを追って行動しているうちに、てっさんの行動が理解出来るようになり、運動に参加するようになったそうです。

てっさんは、刑務所に収監されていた当時、結婚していた夫の方も、同じ時期に同じ理由で逮捕・収監されたそうです。しかし日々の拷問に耐えられず転向し、てっさんとは離婚したそうです。千代子さんとはうり二つです。母は「時代が悪かっただけ」と話していました。

母は九十五才で自叙伝『きつと時代はくる』

(写真上)を書きました。私は、母が存命中にどうして

も読むことが



出来ませんでした。特に、顔を覚えていない父の事が書いてあったら深い悲しみを覚えるだろうと思いましたが。しかし自叙伝の中にはてっさんの生きた証がページを多く書かれています。きっと母は、自分には子供たちが居ててっさんには誰も居ない、そんな中で生きてきた証を活字にして残さなければならぬと、自叙伝に書き記したのではないかと考えるようになりました。母の知人数名の方に「どうしててるさんは自分の事を書かなかったの？」と聞かれることがありました。母の性格は自分の事はどうでも良いというタイプでした。てっさんは、昭和十二年、結核性肋膜炎で二十八歳の生涯を終わりました。

最後になりますが、伊藤千代子の資料を探し、伝聞を掘り下げて研究し、並々ならぬ苦勞を費やされた作者の藤田廣登様をはじめ、映画製作に携わった皆様に心から感謝申し上げます。映画を観ることによって、千代子さんは蘇りました。

(山形支部版「不屈」6月号より)

沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」



こわいをして、
へいわがわかった

沖縄市立山内小学校
2年 徳元穂菜さん

びじゅつかんへお出かけ
おじいちゃんや
おばあちゃんも
いっしょに
みんなでお出かけ
うれしいな

こわくてかなしい絵だった
たっさんの人がしんでいた
小さな赤ちゃんや、おかあさん

風くるまや
チヨウチヨの絵もあったけど
とてもかなしい絵だった
おかあさんが、

七十七年前のおきなわの
絵だと言った
ほんとうにあったことなのだ

たっさんの人たちがしんでいて
ガイコツもあった
わたしとおなじ年の子どもが
かなしそうに見ている

こわいよ
かなしいよ
かわいそうだよ
せんそうのはんたいはなに？
へいわ？
へいわってなに？

きゆうにこわくなって
おかあさんにくつついた
あたたかくてほっとした
これがへいわなのかな

おねいちゃんとかけんかした
おかあさんは、二人の話を聞いて
くれた
そして仲なおり
これがへいわなのかな

せんそうがこわいから
へいわをつかみたい
ずっとポケットにいれて
もっておく
ぜったいおとさないように
なくさないように
わすれないように
こわいをして、へいわが
わかった

6月23日 糸満市
〈6月24日「赤旗」より〉